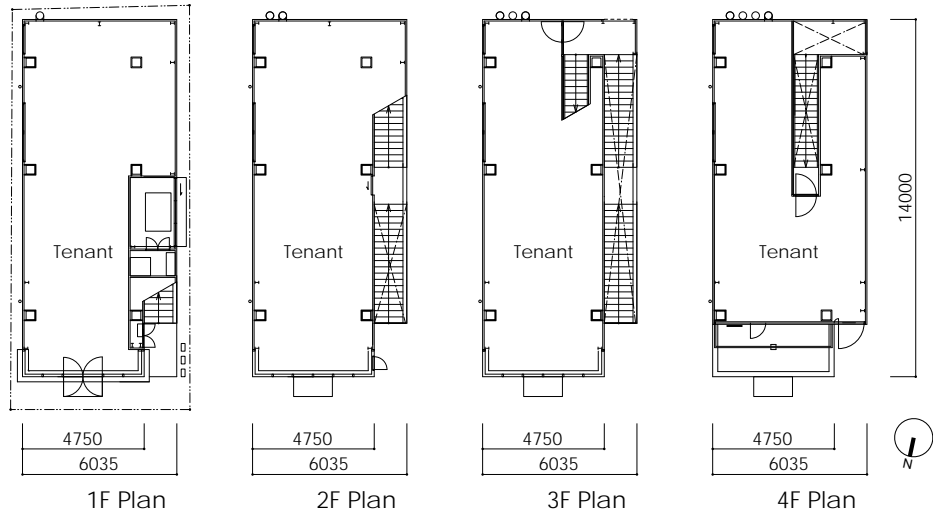


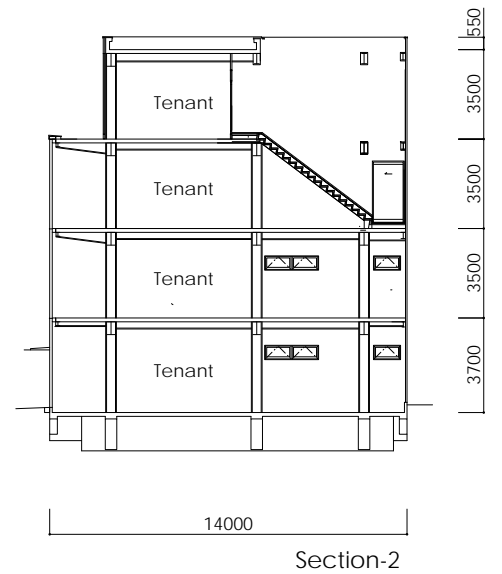
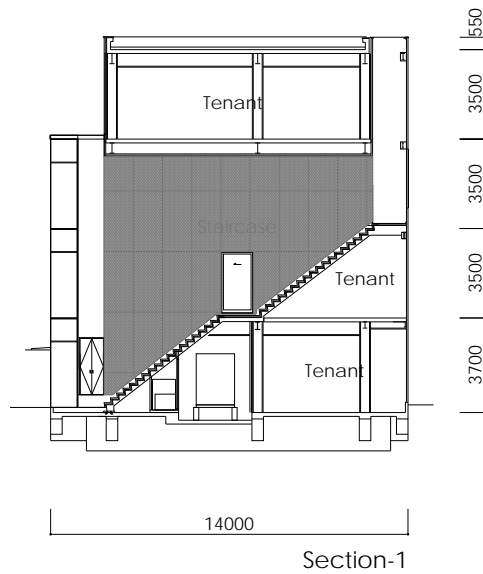
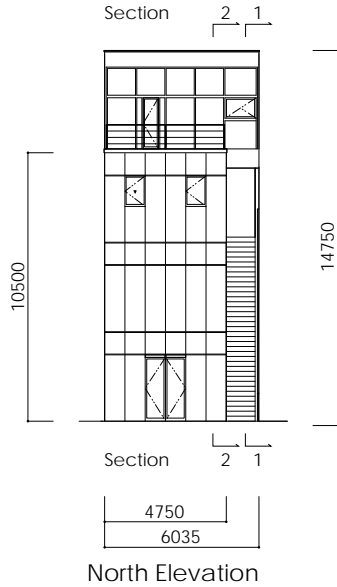
D's Face II

ディーズフェイス2

所在地	福岡県福岡市中央区大名
構造・規模	S造4階建
建築用途	テナントビル
建築面積	80.48㎡
延床面積	289.20㎡
竣工	2002年2月
施工	谷口建設株式会社



- (株)スピングラス・アーキテクトと共同設計
- 内装デザインはコム・デ・ギャルソンによる



敷地のある福岡の大名界隈は、飲食店・物販店・美容室といった様々な商業プログラムが、日本でも有数の巨大な規模で展開されている。それらに応じて、建築・内装デザインにも、商品そのものと相まって、個性的に、無秩序に、比較的小さなスケールで、様々な色や材質、形態が用いられている。典型的なアジアの一風景である。

このコンテキストにおいて、商業建築は、前述したアジアの風景と、建物自身の内装デザインの境界に位置する。そこに求められるものは、従来の「自己完結型」の、設計手法や際立つ素材の採用ではなく、

- ・境界という視点で空間を構築していくこと
- ・内装デザインを納めるハコとしての役割を見つめ直すこと
- ・形態レベルで、このコンテキストの中での確固たる存在方法を選択すること

であると考えた。

それらを踏まえた上で、設計においては、階段室・カーテンウォールといった建築の主要素を、明確に分節し、出来るだけ長く、伸びやかな直線で構成する手法を用いた。階段室には、3層・約10メートルの天井高さを持つ直階段をデザインすることで、特有の雑然とした街並から建物内部への導入に、動線・視線上の一定の距離を持たせている。

その空間は、天井の鏡面仕上げや壁面のアルミエクスパンダメタルを通して、雑然とした風景を映し込みながら、さらに広がっていく。カーテンウォールは、従来の、都市⇄内部の視線の透過という役割だけでなく、フレームレスの工法を用いて、街並に「ガラスの箱」を挿入することで、確固として存在するとともに、それ以外には開口部を設けないことで、内装デザインの照明計画に配慮している。

全体を構成する長い直線は、この街並に対しては建築を、建築に対してはそれよりかなり小さなスケールで展開される内装デザイン・商品を、それぞれ際立たせる働きをしている。



外部階段を見下ろす / Look Down The External Staircase



街路より／ View From The Street



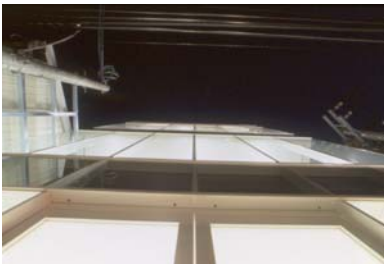
外部階段を見る／ View Of The External Staircase



正面より (夜間) ／ Front View (Nighttime)



外部階段上部を見る／
View Of Above The External Staircase



カーテンウォールを見上げる／
Look Up The Facade



内部空間を見る (2階) ／
View Of The Interior (2F)



内部階段を見る／
View Of The Internal Staircase



正面より (昼間) ／ Front View (Daytime)